様式第３号

平成 27 年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	３８ 中１	学 校 名	県立清水南高等学校・同中等部	校 長 名	秋本 太一郎

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。**	「授業がわかる」と答える生徒の割合：中等部 80%、高校 80%	中：87.4% 高：80.1%	A	研究授業で教員相互の授業見学を行い、全体研修では課題等を共有し、全職員がわかる授業に取り組んだ。指導主事訪問を通じてシラバスの記入事項等の見直しができたので、次年度のシラバス作成に生かしたい。ICT 環境整備とｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ・ｽｸｰﾙ事業を、一層充実させ、「わかる授業」に繋げたい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：中等部 80％、高校 80%	中：79.3% 高：70.6%	B	各学年部で毎日の予定、学習記録調査を工夫した。(中)オリジナル手帳「マイミナミライフ」(高)システム手帳「スコラ」を活用し、各自で家庭学習に取り組んだ。次年度は「学びのﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ」導入し成果を挙げたい。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計 12 回 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計 10 回	音楽：11 回 校内８回、校外２回, 公開ﾚｯｽﾝ１回 美術：10 回ｺﾝｸｰﾙやｸﾛｯｷｰ、立体制作等幅広く実施	A	年間行事である校外の演奏会、美術展は芸術科の重要な成果発表の場面である。集客増のため小中学校を含む近隣住民への広報活動を積極的に行いたい。なお、清水区以外の来客者が多いので、地元清水区からの集客を増やす工夫を行いたい。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合 80%	中：78.7% 高：79.1%	B	生徒全員に認知してもらえるような芸術科生徒の学校等へのより一層の貢献が必要である。
イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	外部講師による講演、講義等の回数 年：7回(中等部)	11 回実施 （道徳９、異文化１職業講話１）	A	思いやりを育てる講話を全学年クラスごとに実施した。進路について考えることができた。
		四年制大学への実合格者の割合：普通科 90%以上 国公立大学への実合格者の割合：普通科 40%以上 音楽大学、美術大学への実合格者の割合：芸術科 80%以上	普通科：86% 国公立：37% 芸術科：65%	B	四年制大学への実合格者は目標に、もう一息であった。 国公立大学への実合格者は昨年より伸びたが目標まで、もう一息である。 芸術関係は音楽が推薦で決定した者が多く、希望どおりの進学が決まっている。大学以外の留学、専門学校、就職等がいるため 65%となった。声楽から演劇関係に進んだり大学が全てではない現状である。
ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進する。	年間の交通事故件数：中高ともに前年度比半減	中：９件(16 件) 高：８件(14 件) (　)内は昨年度	B	交通安全委員の定期的な下校指導や、毎日の登校補助員の成果で学校近辺の事故はゼロである。自転車による事故を無くしたい。加害・被害がないように危険察知能力を高めたい。

様式第３号

		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合:中等部 70%、高校 70%	中：70.6% 高：61.8%	B	授業、部活動、生徒会活動等における教員と生徒との人間関係作りが重要である。生徒の立場を踏まえたわかり易い丁寧な指導が求められている。
		「相談室だより」及び「教員向け相談室通信」発行:年間計 10 回以上	月号で発行 現在まで 10 回	A	毎月、８月を除き発行することができた。内容も充実しており、相談しやすい環境をしっかり保っていきたい。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合:中等部 80%、高校 80%	中：79.0% 高：68.4%	B	「いる」と答えられないあ２～３割の生徒に対する、より丁寧な指導が必要である。。一人で悩むことのないように、相談しやすい相談室や、担任、教科担当とも相談できるような環境づくりを意識したい。
エ	**学校行事、生徒会活動、部活動等の充実を図る。**	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合:中等部 80%、高校 70%	中：91.6% 高：84.9%	A	中高連携しての部活動では、高校生が中等部生を教える姿が見られ、中等部生の大会で最高の成績を残した運動部活動も出てきた。文化部も中高 100 人で結成する管弦楽部は地域にも貢献できる活動を行っている。部活動と学習のバランスが課題である。活動時間の適正化が課題である。
		海外研修(中 3、高 2)で「充実している」と答える生徒の割合：中高とも 90%	中：88.3% 高：89.6%	B	中等部は台湾研修で学校交流も充実してきている。高校はパリからハワイに変更したが事前研修で三保との関係も調べ、充実した研修旅行にすることができた。
		地域に目を向けた教育活動の実施:年間5回以上	管弦楽地域３回、美術三保墨絵、商店街作品展示、介護施設訪問、浜清掃は雨天中止	A	三保松原と富士山を取り込んだ、美術の授業と羽衣の松へのオブジェ参加等、積極的に地域の方々と交流しながら学んだ。管弦楽部の地域演奏は好評である。特に、三保第一小学校での管弦楽鑑賞教室では、校歌の演奏を、特別アレンジで演奏し、全校児童大合唱の中、喜ばれた。
		「学校が楽しい」と答える生徒の割合:中等部 80%、高校 80%	中：86.5% 高：73.1%	B	中等部の授業「表現」は、クラス、学年のチームワーク作りにも効果的である。高校は進路実現に向けた、受験指導があるために、学習の占める割合が多くなるので楽しいという言葉が当てはまり難いのかもしれない。部活動、行事等の切り替えを上手に指導し充実させたい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを	土曜ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙ参加者数:年間 1,500 人 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱｸｾｽ:年間 300,000 件	1,812 人 150 万件超え	A	ちらしの作成に工夫を凝らし、小中学生・保護者の目に留まるように努めた。第１回目の開催日までに学校案内を完成させ配布することができ、募集にも貢献したと思われる。

様式第３号

	推進する。	PTA 総会出席率:50%以上(中高共通) 地区会等の開催に対する満足度:70%	中：43.6% 高：36.7% 3 割の参加率	B	6 年間のため中等部で 1 度出席すると、高校での出席が一段と下がりやすい。内容も工夫し、「スマホの利用」等の共通テーマで取り組んだ。保護者の要望は学校のことを深く知りたいことなので、来年度は学年保護者会の形式で進めて行きたい。
		実践的な防災訓練実施:年間3回 地域防災訓練参加率:中等部 55%以上、高校 35%以上	３回実施 中：70.7% 高：26.9% (高 2 研修旅行のため低い数字)	A	地震、津波に対する防災訓練は予定どおり実施でき成果を挙げた。抜き打ちの訓練においても短時間で全員が避難することができた。火災についての訓練は未実施なので、次年度は織り交ぜる必要がある。
		ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ委員会:年間3回開催 不祥事根絶講話:年間5回実施	委員会２回開催 管理職が職員会議講話 10 回実施	B	不祥事はなかった。相談しやすい雰囲気作りは、一層充実させたい。 職員会議での管理職による体験談を通じての講話は、身近であるため、効果があると感じている。
カ	事務関係業務の見直しと改善を図る。	学校経営予算の執行残:10 万円未満	精査中(4 月中旬) 例年どおり達成予定	A	昨年同様、計画どおりの目標に向かい実現できる予想である。突発的なもの、緊急的なものへの対応は、優先的に実施できた。